

World Health Summitとは

World Health Summitは、世界有数の医科大学・研究機関で構成されたM8 Allianceが主体となってグローバル規模での健康医療問題を検討し、学術的見地から解決策を提言する、世界で唯一の国際会議です。2009年から毎年10月にベルリンで開催され、2013年のWHSには、約80カ国から1000人以上が参加しました。

このたび京都で開催される会議は、WHSの地域会合 (Regional Meeting) であり、「医学アカデミアの社会的責任」を主テーマに据えて、M8 Alliance メンバー国をはじめとする世界各国の研究者、医師、産業界の代表者が日本を含むアジアにおける諸課題について議論する予定です。

M8 Alliance加盟大学・機関(順不同)

- シャリテ・ベルリン医科大学 (ドイツ)
- ジョンズ・ホプキンス大学 (アメリカ)
- ソルボンヌ大学 (フランス)
- InterAcademy Medical Panel (IAMP)
- 国立シンガポール大学 (シンガポール)
- モナシュ大学 (オーストラリア)
- ロシア医科学アカデミー (ロシア)
- 中国医科学アカデミー (中国)
- 京都大学大学院医学研究科 (日本)
- インペリアル・カレッジ・ロンドン (イギリス)
- London School of Hygiene & Tropical Medicine (イギリス)
- モントリオール大学 (カナダ)
- Institut de Recherches Cliniques de Montreal (カナダ)
- サンパウロ大学 (ブラジル)
- マケレレ大学 (ウガンダ)
- International Association of Academic Health Centers (AAHC)

開催日程

2015年4月13日(月)

開会式、基調講演

シンポジウム、パネルディスカッション

分科会(ワークショップ)

懇親会

2015年4月14日(火)

シンポジウム、パネルディスカッション

分科会(ワークショップ)、ポスターセッション

閉会式

一般演題(ポスター) 募集(英語)

登録開始: 2014年 8月中旬 (予定)

登録締切: 2014年10月中旬 (予定)

※抄録はLancet誌に掲載予定です

<http://www.worldhealthsummit.org/>



主催: 京都大学



共催: 福島県立医科大学



WHSRM2015事務局

〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町

京都大学 医学・病院構内共通事務部内

E-mail: WHSRM2015@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp



World Health Summit Regional Meeting 2015

医学アカデミアの
社会的責任



日時 | 2015年4月13日(月), 14日(火)

会場 | 国立京都国際会館
Kyoto International Conference Center

登録受付 | 2014年11月頃より(予定)

ご挨拶

このたび World Health Summit Regional Meeting 2015 を、京都大学および福島県立医科大学が主催・共催する運びとなりました。

World Health Summit (WHS)は、学術的見地から世界の健康医療問題の解決策を追求するために、2009年からベルリンで毎年開催されている国際会議です。

京都大学大学院医学研究科は、WHSの発足以来、会議の企画・運営を担うM8 Alliance memberとして積極的に参画しております。また福島県立医科大学は、2011年の東日本大震災において発生した健康問題に関する研究などを通じて、WHSで重要な役割を果たして参りました。

京都で開催する今回の会議は、WHSの準備・地域会合 (Regional Meeting)であり、日本を中心としたアジア地域における健康医療諸課題について議論を展開します。特に、超高齢社会とアジア諸国での災害や環境問題に対する医学アカデミアの役割に重点を置いて、世界の英知を結集し、協議し、その成果を政策につなげていく予定です。

本会合の目的と意義にご賛同いただき、広く皆様にご協力・ご参加いただきますよう、心よりお願い申し上げます。

京都大学大学院医学研究科

医学研究科長 湊 長博

社会健康医学系専攻長 福原 俊一

福島県立医科大学

理事長 兼 学長 菊地 臣一

「医学アカデミアの社会的責任」

すべての先進国と多くの途上国にとって、超高齢社会は重大かつ共通の課題です。その超高齢社会を世界で最も早く迎えた我が国で、医学アカデミアの果たすべき役割は甚大です。また、東日本大震災やフィリピンの台風被害に見られる災害、さらに地球温暖化やPM2.5などの環境問題は、世界の住民の健康に多大な影響を与えており、この点においても医学アカデミアが担うべき社会的責任は大きいと言えます。

本会合では、右記のテーマについて世界の英知を集めて議論を展開し、その成果を政策につなげることを目指します。

Keynote Speakers



Ichiro Kawachi

Professor
Harvard School of Public Health



Richard Horton

Editor-in-Chief
The Lancet



Michael J. Klag

Dean
The Johns Hopkins Bloomberg
School of Public Health



Peter Piot

Director
London School of Hygiene
& Tropical Medicine

主要テーマ(予定)

超高齢社会への挑戦

安寧な健康長寿社会を維持するために、企業や自治体、異分野の専門家と協働で新しい社会システムを構築する上で、医学アカデミアが果たすべき役割について議論する。

自然災害への対応と準備

近年の東日本大震災やフィリピンの台風被害等によって得られた経験をもとに、環境の変化や災害への適切な対応と十分な準備について、医学アカデミアの社会的責任を議論する。

次世代リーダーの養成

World Healthの諸問題への継続的な取組みには、次世代医療を支える若手の育成が欠かせない。医学アカデミアの大きなミッションの一つといえる人材育成に関して議論する。

Social Responsibility of
Medical Academia